

三好さんの話を聞いて、自分が生まれる前
にこんな大変だったんだと思いました。

ドラマを見せてもらってゆれはじめてすぐに家が
めちゃくちゃになっていたのでこわかったし、神戸が
炎につつまれるのを見てこの世に生まれてよかった
と思いました。死者6434人の中で神戸では4564
人が死んでいるのがこわかったです。今日聞いた
事を生かしてさいがいの因果をまもりたい
です。

身近なところにいる人を大切にす
るといふ思いが、より深
まりました。

これが、今は、地味なことのくても
したし、いざ災害時に、目を見
合いか、できるような仲にな
りたいです。

30年が、ほんのりのように、
つぎの世代に伝えていきたいと
思いました。

てくれた人もかわいそうだし、大切な人が今身近に
たくさんいるけど、まだ以前のように話してくれな
い。震災の時それは、当以前ではなく、
自分が死ぬかもしれない状況で、両親
は助けるんだと思っただけ。大切な人が
すぐに亡くなるという状態で、自分には一つも
できないうえに、かわいさう。
そして、どんどんうせいに伝えていきか
ない。ダメだろと思っただけ。

新たに分かったことがたくさんあった。

近所の人や家族を大切に、仲よくしておいたほうがいい

ことを忘れずに生きていきたいと思う。あと、ダンボール

家においておいて、もし震災がおきたらダンボールハウスを作

ろうと思いました。

三軒さんの「阪神・淡路大震災」の話を書い
て、一番心に残ったのは「伝える、そして忘れない
という言葉です。理由は、自分たちにかたりついで
きく来たことを、忘れず、次の世代の人々に伝えると、
またその人が語りついでくれるおけいこになる
といいなと思ったからです。他にも、勉強になること
がたくさんありました。それと、今日作った新聞のスリッ
パを、ふいとのとなりにおいてみようかなと思いました。
大しんさいを味わったことはないから、どのような
ものか分からないけど、今できる防災対策を家で
してみようと思いました。

三好さん

今日は本当にありがとうございました。今日は阪神・淡路大震災の

ことについて、ドラマを見せてくれたり、記事を見せてくれたり、新聞スリッパの作

り方を教えてくれたりと、ありがとうございました。

私は新聞スリッパの作り方をやったことはあるけど、忘れてしまっていたので、

今日もう一度知れてよかったです。

あと、私が生きている間に南海トラフが来ると聞き、たいさくを（たいと

思います。

今日は本当にありがとうございました！

えんがたいいきょうた
いかいいししかあおかつた
あかいがすかつた。

かすかに太い1800の糸で住たしかあ
るのかいいちばんまじりすこ。

1111ようセンターなどでもあつて113の
も1つこう人1一の2つ2自分かみして
たよりもずとみかいかいすこちた。

今日は三好さんがしんさいのお話をしてくださって、
私は、仲よくするのが大事だなと思いました。
なぜかということ、もし大震災がおきて自分が下じき
になってしまってきんじょの人にすこしでもしてたら
たすけにきてくれるかもしれません。だから、私は
きんじょの人とのコミュニケーションを大切にしたい
と思います。

阪神淡路大震災のお話を聞いて僕は
新聞社の人も大変だったんだと思いま
した。新聞をいんさつするきかいがこわれて
いるのでわざわざ京都まで行ってその日の
新聞をいんさつしてもらったのがすごいと思
いました。それから、

そして、新聞をいんさつすることが出来なく
てあぶなかった三つのときも、なんとか毎日くば
りつづけてるのもとてもすごいと思いました。

それから、この話を聞いて、阪神淡路大震
災の被害がよりいそうつたわりました。ほ
ど近所付き合いを大切にしていきたいとおも
いました。

また、阪神淡路大震災の死者数6434人の
なかで神戸は4564人なのも初めて矢張りま
した。

阪神淡路大震災のときのお話を聞いて
自分のまわりにいる人たちとなかよく
していれば災害のときに助けられる
ということもありたためて思いました。なぜ
なら震災がきたときに神戸新聞社はこわ
れたがなかよくして、た京都新聞社が
協力してつってくれたということがあ
ったからです。このことからぼくは友
達など身近にいる人たちとなかよく
することを大切にすると思いました。
そして災害などの備えにゴールはない
ということも思いしらされました。

私は、備えにゴッルはないという言葉聞いて、いつ大地震が来るか分からないので私も地震に備えて教えてもらった新聞スリッパを作ってみようと思いました。また、6000人をこえる人たちがこの大地震でなくなってしまって悲しいと思いました。地震はとてもこわいものだと思いました。阪神淡路大震災は冬の朝に起ったのでひなんする時とても寒くてうらかっただろうなと思いました。近所の人と仲よくしていれば災害の時に助け合えるといっていて私もあいさなどをして仲を深めようと思いました。

三好さんの話を聞いて私は震災は、すごくおそろしいものだを改めて思いました。理由は、阪神淡路大震災でおよそ6000人もの命がうばわれ、うち約2000人が神戸の人であり、約60人が淡路の人。ということを初めて知ったからです。三好さんは、ほかにもニュースなどで「阪神大震災」と言われるときもあるけど、「淡路」を入れてほしい。という話もされていました。淡路を入れてほしいのは「被害を大きくうけたのは阪神だけではない、淡路も大きな被害をうけている。」から淡路も入れて言ってほしいと話していました。そして、私が一番心に残ったのは、「人は二度死ぬ」ということです。大回目は、人々が言う「死ぬ」ですが、死んでしまったその人を忘れてしまうことで、その人のそんな「い自体が「死ぬ」ということなのです。なので、死んでしまった人を「忘れない」ということが大切だと、私は学びました。

私はみよさんの話を聞いて、

その日が最後かもしれないと思って
身近な人を大切にしようということから、
心に残りました。

理由はみよさんかいうとおりいつた
くなるか分からないので今日なくなるかも
しれないから身近な人を大切に、今を大切に
生き抜いていけなしいと思ったからです。

今回のお言葉を聞いて私が一番心に残ったのは、「身近な人を大切にしよう」です。1995年1月17日「阪神淡大震災」が起き、死者、6434名というものすごくたくさんの人の命を失いました。このけいけんで「人々はつらいことや悲しいことなどがたくさんありました。しかし、苦しいことはたくさんあったけど、それを人々は助け合い、のりこえ、築を深めました。このことから、一人一人努力して少しでも多くの人を救いたいという気持ち伝わってきたからです。また、この「阪神淡大震災」のことを伝えつづけて、わすれないということも教えてもらいました。

ふだんの生活でも身近な人を大切にするという
言葉を聞き、いい意味でショックを
受けました。いつも当たり前のように接して
いる先生、友達、家族なども「身近な人だから
こそ大切にする」ことを学んだ上でそれを
目標に進んでいこうと思いました。

阪神淡路大震災から30年という年月が
経っても今を生きる私たちが知っていること
自体、たずねびとと同じように深い伝統や
物語があると感じました。

講話や動画にもあったように地震が起こった
直後は「何が起きているのかが分からない」
状況や言葉にできないほどのうちのめされ
るような気持ちでいっぱいだと聞きました。

阪神淡路大震災だけでなく、東日本大震災、
熊本大地震など大きな地震を経験し
たことがないので今からもできる地
震への備えも取り組んでいこうと思います。

三女子さんのお話しを聞いていしんがおきた時のあ
っし、ちろくしだけてなく原子爆弾でもストレスがほ
しゃせんて後いしょうかのこったりしてそれがDNAな
て子いもにもしょうがいがあるてきいて、いしんに対する
対策も大切だがおつたあとのサポートという面も
考えないてな、と思いました。そして、どうろや病院まして
や銀行までたて牛物がこあれるとはこあいと思いました。
そして、30年以内には走こるてい焼ているからさらにそ
なえたいて思いました。そして一番ハに残たのが「人は二度
死ぬ」という言葉です。これは、一度目はその牛物が「消めつ
(死に)」し、二度目はその牛物がみなと言おくから忘れ
らるることです。これと同じて「いしんもおさるのほしかたが
ないけてそれをつたえていてそなえるのが大切だ
て思いました。